

●看護職員及び医療従事者の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

R6.3.1

分野	現状	令和5年度末(R6.3)までの目標	目標達成のための必要な手順	達成項目のチェック						備考	
				令和4年度末(R5.3)		令和5年度末(R6.3)		令和6年度末(R6.3)			
看護業務	認知症患者の見守りを、看護師がステーション内で行いながら、他の患者の看護を行っているため、見守りができていない場合がある	各病棟の補助者により安全な見守りができるようにする	看護補助者への教育とマニュアル作成、実技の研修等を増やしていく。 看護補助者の増員。	☑	50%	☑	60%	☑	60%	高齢者・認知症患者の増加に伴い達成は不十分であるが、サポーター含め看護補助者が増員しているので達成できるよう努力していく	
	清潔援助は、ヘルパー資格を持っている補助者が実施	補助者全員が清潔援助が行なえるように教育する		☑	90%	☑	90%	☑	90%		
	看護師が担当病室の環境整備を実施している。	ベッド整備は看護補助者が実施していく		☑	100%	☑	100%	☑	100%	目標は達成できたので、今後も継続していく。	
	看護補助者が車いすでのリハビリや検査への送り迎えを行う	積極的に看護補助者が送り迎えを行う体制にしておく		☑	70%	☑	80%	☑	80%	看護補助者が増えたことにより、検査への送り迎えは増加している	
	特浴や病棟での入浴介助は看護師と看護補助者で行う。	目標は達成できているので今後も補助者の業務として継続していく		☑	100%	☑	100%	☑	100%	補助者の業務として定着しているので、今後も継続	
	褥瘡の発生時や持ち込み時には、褥瘡委員会メンバーにコンサルする	褥瘡についての知識、予防策を。看護補助者に対しても教育し、予防に対する協力を得る		☑	100%	☑	100%	☑	100%	目標は達成できているので、引き続き継続していく。	
	ナースステーションでの電話応対面会者、入浴者の対応が多い	補助者1名がステーション内にいて、対応業務、書類整理、患者見守り業務を行う		看護補助者業務分担 マニュアル作成	☑	70%	☑	80%	☑	80%	看護補助者の事務業務を行う者の定着したため、業務効率がよくなってきている。
	入院迎えをほとんど看護師で行っている	看護補助者が迎えに行ける患者割合を40%にする		外来・病棟との連絡体制手段を明確にする。看護補助者に移譲できる患者の明文化	☑	75%	☑	50%	☑	50%	伝達の工夫で、業務移譲を実施する。看護補助者の退職により達成率は下降傾向
	外国人看護補助者の活用	アリススタッフの派遣職員を活用し、業務の効率を上げる		アリススタッフの看護時補助者が勤務している時間に効率よく業務を進める	☑	50%	☑	70%	☑	80%	土日や準夜勤帯での業務負担軽減につながっている
医療機器管理	医療機器の中央管理(臨床工学技師による)	中央管理機器の機種の拡大を図る	・マニュアル・手順作成 ・看護師への教育実施	☑	90%	☑	90%	☑	90%	院内の医療機器の中央管理が充実してきたが、更に中央管理の拡大が必要。	
	手術室の機器管理 録画装置操作	その他、電気メス等の手術機器の管理拡大を図る。		☑	50%	☑	50%	☑	80%		
検査業務	病棟翌日分の採血管の準備と配達	目標は達成できているので今後も検査科の業務として継続していく		☑	100%	☑	100%	☑	100%	目標は達成できたので、今後も継続していく。	
	健康管理センターでの採血業務	100%の実施率を目指す		☑	100%	☑	100%	☑	100%	目標は達成できたので、今後も継続していく。	
処遇改善	病児保育を利用した時に最大2,000円の補助を行っている制度の職員へ再周知	漏れなく届出するよう職員への周知を徹底する	庶務課から各職場長への説明を徹底する	☑	50%	☑	60%	☑	60%		
	リフレッシュ休暇、バースデイ休暇など、休暇を取得しやすい環境にしておく	各師長から休暇の取得を促す		☑	50%	☑	50%	☑	50%		
	学校休校に伴う特別休暇の取得促進	各師長から職員への説明		☑	80%	/	/	/	/		
	年次有給休暇の取得促進	年休5日の取得徹底、各師長が休暇取得の管理		☑	100%	☑	50%	☑	50%	3月末までに100%にする	